



# 二十六聖人

<p>聖アタナシオス</p> 	<p>聖ヨスエフ</p> 	<p>聖ペトロ助白師</p> 	<p>聖カエリナ</p> 	<p>聖マイケル</p> 	<p>聖パウロ</p> 	<p>聖バシリカ</p> 	
<p>聖ヨハネ</p> 	<p>聖ヒロニムス</p> 	<p>聖アントニオ</p> 	<p>2月5日 日本 二十六聖人 殉教者 記念日</p>		<p>聖ペドロ・パブロ</p> 	<p>聖マウリチオ</p> 	<p>聖エズラ</p> 
<p>聖ゴンザレス・ガブリエラ</p> 	<p>聖フランシスコ・アランコ</p> 	<p>聖カエリナのフランシスコ</p> 			<p>聖マテオ</p> 	<p>聖シメオン</p> 	<p>聖オベディア</p> 
<p>聖トマス</p> 	<p>聖ヨアキム</p> 	<p>聖フランシスコ</p> 	<p>聖トマス</p> 	<p>聖バルナバ</p> 	<p>聖ガブリエル</p> 	<p>聖パウロ</p> 	

## 巻頭言：西坂から二俣川へ

父よ、あなたがわたしの内におられ、わたしがあなたの内にいるように、すべての人を一つにしてください。彼らもわたしたちの内にいるようにしてください。そうすれば、世は、あなたがわたしをお遣わしになったことを、信じるようになります。【ヨハネ 17, 21】

**1597年2月5日**、長崎の西坂には26本の十字架が立てられています。そこへ長崎から連れられてきた26人の信徒・司祭・修道士たちが近づいています。両耳が切られたまま1ヶ月の間、彼らは歩いてきました。いよいよ十字架が見えると、彼らは喜び始めました。十字架の上でも、彼らの口からは神様への賛美、福音の証しの言葉、祈りが絶え間なく響き渡っていました。ついに槍で刺された時、彼らの目には天の永遠の都が映ります。26本の乾いた十字架の木に、永遠の花が咲いたのです。

**2月5日は**、「日本二十六聖人殉教者」の祝日です。12歳の子どもから64歳の年配者、仕事も国籍も異なった人たちが、西坂で命をささげて神様への信仰を証しました。その二十六聖人は、日本より先にヨーロッパで知られ、信仰者の模範として尊敬されている聖人たちです。

聖人たちは、ただ一つの道を一緒に歩きました。迫害が26人を集めさせ、一つに結んだかもしれません。しかし、聖人たちはすでに御父と御子の聖なる唯一の交わりに結ばれていました。聖人たちは、その交わりのしるしである「**唯一の教会**」を立派に示したのです。

聖人たちの聖性は、イエス様の御言葉とご聖体からのものです。聖人たちはこの二つの聖なる泉から神様の愛を見出し、それを実践しました。そして自分たちの死を持ってその愛に基づいた聖性を証したのです。聖人た

昨年復活節に祭壇の後ろの左右の窓に飾られたスタンドグラス風の和紙で描かれた26個の桜の花 →



ちは「**聖なる教会**」そのものだったでしょう。

聖人たちの信仰は変わりませんでした。色々な誘惑、苦しみ、悩み、疑いなどがあつたはずでしょう。でも、その一ヶ月の間、聖人たちは昨日も今日も明日も、変わらぬ信仰を保ちました。年齢、仕事、国籍、身分を超えた、正に「**普遍の教会**」のしるしでしょう。

聖人たちにイエス様の愛を伝えたのは宣教師たちでした。聖人たちはそれを素直に学び、信じ、行いました。その愛はイエス様から使徒たちへ、宣教師たちへ、二十六聖人へ繋がれたでしょう。そして、使徒たちと同様に血を流して「**使徒的な教会**」を証したのです。

**今**、聖人たちは栄光に満ちた天の永遠の都で、二俣川の丘を見つめています。西坂から天を仰いでいた聖人たちの瞳の中に、わたしたちの教会が映されています。聖人たちの取次ぎに励まされて、わたしたちが神様の御心に適う共同体となり、共に歩むことができますように。

主任司祭 ヤコブ 姜 真求



2025年1月 (1月5日開催)

### 【検討事項】

1. 事務所規程の改定案検討  
2014年に制定された「カトリック二俣川教会事務所の業務・労務管理に関する職務規程」の改定を検討しはじめました。決まりましたら改めて信徒の皆様にご報告します。
2. 名札着用の推進  
信徒が交わり易くするために名札の着用を再開する予定です。コロナ禍での中断で名札を失くされた方が多いと思いますので、再発行の準備もしています。なお、以前からそうであったように名札着用を強制するものではありません。
3. 十字架の道行の各留、文字版設置  
聖堂の十字架の道行は場面が描かれているだけで、何の留かを示す言葉が添えられていません。子どもたちや初めて教会を訪れる方たちには場面の意味が伝わらないので、留の下にタイトルの記された文字版を付けることにしました。
4. 日本二十六聖人のミサ行列  
二俣川教会の守護聖人である日本二十六聖人殉教者の祝日(2/5)を祝って、今年は2/9(日)10時ミサで二十六聖人に扮した26名が口ウソク行列を行います。行列に加わる信徒を募集していますので応募をよろしくお願いします。
5. 堅信式  
今年は、司教様のスケジュールを確保できなかったため、堅信式は行いません。

### 【各会報告】

1. 典礼委員会  
2/2(日) 主の奉献、10時ミサの中で口ウソクの祝別  
2/5 10時ミサ、2/8 17時ミサ、2/9 7時と10時ミサで祭壇前に26本の口ウソク点火  
2/6(木) ベネディクション 19:00  
2/9(日) 10:00 ミサにて水の祝別、日本二十六聖人の行列  
2/6(木) ~2/26(水) 枝の回収  
3/5(水) 灰の水曜日、灰は当日10時ミサ以外では受けられません。  
3/7(金)~毎週金曜日 9:20 十字架の道行き毎週金曜日、教会の祈り(朝)はありません。各自、家で祈ってください。
2. 教会学校  
・1/19 教会学校始業、初聖体クラス開始  
・子供たちにクリスマス・プレゼントとしてアンナ会からオーナメント、教会学校からお菓子を贈りました。アンナ会の方々に感謝します。
3. キリスト教講座  
3月8日(土) 13:30~ 四旬節黙想会、指導司祭は西村英樹神父様です。
4. 財務委員会 2024年バザーの決算報告
5. 広報委員会  
・「二十六聖人」2月号から連載で、通常聖年を特集します。  
・二俣川教会として聖年に向けた教皇様の大回勅「希望は欺かない」(税込220円)を25部購入します。

- 6. 福祉委員会 年末福祉献金の報告
- 7. 建物管理委員会  
全館ワックスなど清掃頻度変更の報告
- 8. 共同墓地委員会  
今月は特に活動ありません。
- 9. ヨゼフ会
  - ・12/8、22 コーヒー光、12/15 定例会
  - ・12/29 の10時ミサ後、二階集会室で忘年会を行いました。
  - ・1/12 コーヒー光予定
- 10. マリア会
  - ・報告  
パーティー係 12/7 会議・新成人のお祝いパーティー打合せ  
マリア会運営委員会 12/23 マリア会総会準備  
アンナ会 12/1 クリスマス・バザー出店、12/9 反省会  
ボリビア支援グループ 12/8「のんびり日曜日」、12/13 会議  
ステラマリス帽子を編む会 12/20 活動
  - ・予定  
1/26 マリア会総会  
マリア会運営委員会 1/20 会議、1/24 マリア会総会資料印刷

- パーティー係 1/18、19 会議・新成人のお祝いパーティー準備
- アンナ会 1/27 会議
- ボリビア支援グループ 1/12「のんびり日曜日」  
ステラマリス帽子を編む会 1/17、23 活動
- ・ステラマリス帽子を編む会が毛糸集めをしています。毛糸の献品をお願いします。
- 1 1. 青年会
  - ・12/22 にインターファミリーと合同で「みんなで祝おうクリスマス」を行いました。クリスマスバザーで投票した曲や外国語の曲を歌って楽しみました。
  - ・1/19 の10時ミサを青年ミサにして新成人を祝います。当日の参加者は5名の予定です。
- 1 2. インターファミリー  
12/22 に青年会と共同で「みんなで祝おうクリスマス」を行いました。その後、インターファミリーのクリスマス会を行いました。
- 1 3. 一粒会  
新規一粒会献金会員募集のロビーでの掲示は1/26（日）に終了します。いつでも入会は可能です。

以上

\*\*\*\*\*



皆さまからご寄稿いただいた縦読みポエム、シリーズ第4弾です。  
ポエムの最初の言葉を縦に読んでみてください。

マリアさま  
理想の母親と  
あがめられ  
流石と  
毎日祈る吾

聖体に宿る  
イエス様の  
霊をいただいて  
生きてる私たち

せかいじゅうで  
いちばん多くの人に  
いられている  
よまれている 物語



## 皆で祈りましょう

2025年、いよいよ聖なる扉が開かれて聖年が始まりました。教皇フランシスコの呼びかけです。

「聖年が、わたしたちの信仰を強め 復活のキリストを生活のただ中に見出す助けとなり わたしたちキリスト者を希望に満ちた巡礼者に変える力となりますように」祈りましょう。



聖なる門を開かれた教皇様

### 聖年の祈り

てん ちち  
天の父よ、

あなたは、わたしたちの兄弟、御子イエスにおいて信仰を与え、  
聖霊によってわたしたちの心に愛の炎を燃え上がらせてくださいました。  
この信仰と愛によって、神の国の訪れを待ち望む、祝福に満ちた希望が、  
わたしたちのうちに呼び覚まされますように。

あなたの恵みによって、わたしたちが、  
福音の種をたゆまず育てる者へと変えられますように。  
この種によって、新しい天と新しい地への確かな期待をもって、  
人類とすべてのものが豊かに成長していきますように。  
そのとき、悪の力は打ち払われ、あなたの栄光が永遠に光り輝きます。

聖年の恵みによって、希望の巡礼者であるわたしたちのうちに、  
天の宝へのあこがれが呼び覚まされ、  
あがないの喜びと平和が全世界に行き渡りますように。  
永遠にほめたたえられる神であるあなたに、  
栄光と賛美が世々とこしえにありますように。

アーメン。

Franciscus

教皇フランシスコ

(2025年聖年 カトリック中央協議会 HP より)

## 未だに、涙が流れている能登半島での体験

11月28日～30日の二泊三日で、私たち助祭コースの7人で被災地である能登半島へ訪問に行って参りました。ご存じのように、元日に発生した地震は大きな被害をもたらしました。地震が起こって以来、テレビやインターネットをとおして伝わるいろいろな情報から、皆様も被災地の様子を大体知っておられると思いますが、現地に行って、実際の状況を見、話を聞き、そして自分の体で感じて本当に、被災者の方々がどれほど悲しみ、苦しんでいるのか、そして、被災地がどれほど破壊されたか、どれほど大変だったのかを実感しました。私にとってこれは初めての被災地への訪問でした。能登には「未だに、涙が流れている」と感じました。

今回の能登での旅の中で、名古屋教区司祭で、被災地で働いておられる片岡神父様が素晴らしいスケジュールを組んで、実際に案内してくださったので、私たちみんなにとって十分な体験ができたと思います。私個人もいろいろなことを感じ、思いました。初日には、金沢教会に着き、聖霊会・金沢修道院を訪問してから、内灘町（液状化工リア）を視察しました。その後、羽咋ベース（羽咋教会）で宿泊。二日目には七尾ベース（おらっちゃん七尾）へ移動し、一日ボランティア活動（家屋の片づけや災害で出たゴミ出しを行う）に参加させていただきました。三日目には羽咋ベース（羽咋教会）で朝の祈りとミサをささげてから輪島へ出発し、輪島教会、輪島朝市現場周辺、輪島港、重蔵神社、名舟港など、復興状況を視察してきました。その三日間、災害によって破壊された場所をよく目にしました。被災地では多くの建物が倒壊するなどの被害が出ました。ビルも倒壊したほか、断水して津波の危険がある中での消火は

困難を極め、輪島市などでは大規模な火災も発生しました。道路も震災によって破壊され、道が歪んだり、壊れたり、寸断されたりして、一時的に被災地に続く道が不通になりました。そのために、全国のいろいろな所に援助やボランティアをすることを望んでいた方々がいましたが、なかなか現地に行くことはできませんでした。ある時期は、受け入れ態勢が整わないために、行政もボランティアの方々に来ないようにと指示を出さざるを得なかったそうです。言い換えると、被害者の方々への支援の輪という繋がりが断ち切られたのです。本当に辛く思いました。今は被災地への道は繋がりましたが、仮復旧ということもあり、歪んだり、上がったりが下ったりして、道路がデコボコになっている状況なので、スピードが制限されています。また、輪島港や名舟港では地震によって地盤が隆起するなどの被害を受けています。ニュースによって伝わっていると思いますが、私たちを案内してくださった片岡神父様が現地を実際に見せてくださいました。地震の影響で漁船が出られなくなり、回復のため隆起した部分を削ったり、海底から土砂をすくったりする作業を行ったりしなければならなかったそうです。今はその作業を終え、ようやく漁に出ることができるようになったそうです。復興作業は絶え間なく続いているようですが、復興は十分に進んでいません。作業はまだまだ残っています。ですから、ボランティアの方々が必要です。能登半島での旅の中、私たちがお手伝いしたお宅の方と話して、被災者となったことを非常に悲しんでおられると感じました。

三日間ずっと、悲しいことばかりを見聞きして自分の心も重くなっていました。ところ

が、聖堂が倒壊し、聖堂のあった場所が更地になった輪島教会を訪れた時、敷地内にある海の星幼稚園の子供たち（5人）が私たちをニコニコしながら迎えてくれたことはうれしかったです。三日間の中でその笑顔が一番印象に残っています。その笑顔を見て自分の心が晴れやかになりました。倒壊し、更地になったところからまた新たな芽生えが出始めた実感したからです。能登半島全体もそうなっていくでしょう。震災によって多くのもの

が破壊されてしまいましたが、広がる支援の輪によってそれぞれの場所で新たな緑が出てくるでしょう。

いまま余震が続くなか、仮設住宅で心細く過ごされている方も多くいらっしゃいます。皆様の安全と、一日も早く子どもたちが安心して過ごせる日常が戻るよう、一緒に祈りましょう。

ペトロ ホワン・ドゥック・ナン助祭

## <1月5日 ナン助祭の報告会を聴いて>

- ☆能登の復興支援は国がなかなか着手していない状況と聞いて居りましたので、とても心配して居りました。カトリック教会が新たな一歩をふみ出して下さった事に感謝致します。皆で少しずつ力を合わせて前進しましょう。
- ☆能登の町の様子はTVでも観ていたが、人々の悲しみによりそい、現地の子どもたちの笑顔に新しい芽が芽吹いているという希望を感じました。
- ☆能登はまだ大変な状況だと知り、まずはそれを忘れてはいけないと思いました。
- ☆現地に入らないと分からないことがあるので、ナン助祭から直接お話しを聞いたことはお恵みだと感じています。「いずれ主任司祭となるあなた達助祭に災害にあった時にどうすればいいのか感じてほしかったから三日間同行した」とおっしゃっていた神父様のお話しが印象的だった。
- ☆良く編集されていてわかりやすかった！やはり実際に目で見ることは大事ですね！このような経験をたくさん積んで素晴らしい事。人の為、弱者の為、やさしい司祭をめざして下さい。
- ☆能登半島の地震の爪あとの深さを感じました。ボランティアおつかれさまでした。
- ☆I am from Iwate-ken and this is my third time to attend your mass. It's a very good worship to everybody. Good job to all. More power to your diocese.
- ☆It was great to share and being a volunteer with the works of God. Amen.

※ご意見にもいただきましたが、音声不良で聞き取りにくい部分があった点お詫び致します。



たくさんの方が聴いてくださいました



グエップ助祭制作の動画を視聴



ナン助祭からのお話

聖年が、わたしたちの信仰を強め、復活のキリストを生活のただ中に見出す助けとなり  
わたしたちキリスト者を希望に満ちた巡礼者に変える力となりますように。



聖年  
特集  
Vol.1

5ページの「みんなで祈りましょう」に聖年の祈りが掲載されていますが、昨年12月24日、バチカンのサンピエトロ大聖堂の聖なる扉が開かれて開幕した聖年。今年は年間を通して聖年特集をシリーズでお届けしていきたいと思えます。

12月29日の聖家族の祝日に世界中の司教座聖堂（横浜教区は山手教会）で開幕のミサが捧げられました。山手教会は横浜教区唯一の巡礼指定教会です。巡礼者の為に聖年のカードが用意されています。



では、『聖年』とはどんな期間でしょうか？聖年の成り立ちを再確認してみましょう。

—聖年は英語で Jubilee と呼ばれますが、その由来は Jobel（ヨベル）の年です。レビ記の規定には、畑を6年使って7年目は休耕とし、その7年を7回（7は聖なる数字）繰り返した後、「五十年目の年を聖別し、全住民に解放の宣言をする。それが、ヨベルの年である」（レビ記 25:10）とあります。この年には、土地は原則として所有者に返され、負債は免除され、奴隷は解放されるなど、言わば大恩赦の年でした。だからこそ、聖年は何よりも〈解放の年〉なのです。

キリスト教の時代になり、聖地への巡礼と100年後との聖なる年という考えが加わり、歴代の教皇たちが聖年の規定を整えていき、1500年に教皇アレクサンデル6世によってローマの四大バジリカの聖年の扉を開く式が始められました。基本的には二十五年ごとに（通常聖年）祝われますが、実際には二十世紀の聖年は〈1900年通常およびイエスの聖心への奉獻〉〈1925年通常および第1ニカイア公会議1600年記念〉〈1926年アッシジの聖フランシコ帰天700年記念〉〈1933年キリストによる贖いの1900年記念〉〈1950通常〉〈1975年通常〉〈1983年キリストによる贖いの1950年記念〉〈2000年第3千年期開始の大聖年〉〈2015年いつくしみの特別聖年〉が祝われました。来年は〈通常聖年〉ですが、早くも2033年には〈キリストによる贖いの2000年記念〉の特別聖年があるだろうというのがもっぱらのうわさです。

現在の規定では、教皇はサンピエトロ大聖堂の聖なる門を開き、ラテラノ大聖堂、サンタマリアマッジョレ大聖堂、サンパオロフオリレムーラ聖堂で教皇が指名した代理によって同様の儀式が行われます。聖年の終わりに聖なる門は閉ざされます。2025年の聖年は、2024年12月24日のサンピエトロ大聖堂の聖なる門が開かれて開始され、2026年1月6日にこの扉が閉じられて閉幕します。地方教会では、2024年12月29日に開幕、2025年12月28日に閉幕することとされています。——（大阪高松大司教区のホームページより）

次号から、免償や巡礼について、テーマである「希望の巡礼者」について、また、公布された大勅書「希望は欺かない」の連載もスタートします。私たちも「希望の巡礼者」としての歩みを進めるために、共に学び、分かち合っていけたら幸いです。

\*\*\*\*\*

## ホッとトピックス

### 二十六聖人に捧げられた教会と出会う

日本二十六聖人を守護聖人にいただいている教会はたくさんありますが、二俣川教会と同じ横浜教区では、二宮教会(中郡二宮町)と吉田巡回教会(静岡県榛原郡吉田町)があります。日本二十六聖人の祝日(2/5)を前に、二宮教会の友人に「あなたの教会では日本二十六聖人についてどんなことをされていますか？」と聞いたところ、下記のようなことを教えてくれました。



『二宮教会での日本26聖人殉教者について：

20年ほど前に、教会学校の子もたちがたくさんいた頃は、リーダーとシンプルな26聖人の人形を作り台に棒を立ててこの季節に展示していました。現在は子どもたちもいなくてそれは途絶えています。2020年は二宮教会の創立70周年記念でした。その時、私は準備委員でしたので守護聖人に関して何かしたいと思ひまして、添付の地図(写真参照)を作りました。障子紙を台紙にして日本地図のコピーを貼り京都から西坂までの道のりを書き込んだものです。あの寒さの中、厳しい状況で殉教にむかった26聖人の現実を見せつけられた思いがしました。これは毎年展示したいと思ひていましたが、コロナとか空間が限られていることでお蔵入りになってしまっています。毎年、閉祭の歌に日本二十六聖人殉教者を歌います。それと西坂の絵を展示しています。』

二宮教会の方々が殉教者への思いを込めて地図製作に取り組んだことと、26人の聖人たちが京都から長い道のりを経て西坂へと歩いて殉教したことが私の中で重なり、胸が熱くなりました。今年はいつにも増して心豊かに2月5日の祝日を迎えられそうです。

二宮教会の方々、ありがとうございました。感謝のうちに、掲載させていただきます。

# 新成人、おめでとうございます!

1月19日、2025年に二十歳を迎えた皆さんのお祝いを行いました。当日参加した新成人は以下の5名です。ミサの中での挨拶(要約)をご紹介します。



## マリア・セシリア T. A.

温かいお祝いの場に感謝。家族もたくさんで、生まれた時からここで皆さんに育てていただいた。今日、皆さんが「おめでとう」と声をかけてくださり嬉しい。今、大学で神学の勉強中。これからは今ここにいる子どもたちのためにも、皆さんにも恩返しできたらいいなと思います。

## ダニエル O. Y.

盛大なお祝いに感謝。マレーシアでメイクの勉強中。映像を見て懐かしく感動。二俣川教会で育って本当によかった。二十歳の実感は湧いていない。みんな温かく優しいので戻って来たいです。



## アシジのフランシスコ O. K.

素敵なお祝いに感謝。大学で経済を学んでいて、中高の社会科の教員を目指しています。支えに感謝。これから還元できるように頑張りたいです。

## アシジのフランシスコ K. K.

姉の影響もあって看護の道へ。教会での色んな関わり、楽しかった。こうしてまた二十歳を迎えてこのミサに参加できることが出来、感慨深くて新鮮な気持ち。



## パウロ M. Y.

歌や映像のプレゼントに感謝。具体的な将来の夢は探しているところ、大学でパソコンなどを学んでいるので活かしていきたい。二十歳の実感はあまりないが、責任のある行動と共に、これから感謝の気持ちを還していきたい。

ミサの中でのお祝いでは、神父様から祝福をいただき、教会からのプレゼントを差し上げました。今年のプレゼントは「フランシスコ教皇様の日めくりカレンダー」。また、神父様からのお祝いメッセージが書かれたカードは『願いなさい、そうすれば与えられる。あなたがたは喜びに満たされる』というヨハネ 16章 24節が書かれたものを選びました。

続いての歌のプレゼントは、教会学校の皆さんから「友達になるために」が可愛い振り付けと手話で披露されました。青年会からは、新成人たちの幼い頃の写真と、青年たち、幼い頃に主任司祭だったジャック・グルニエ神父様、神学生だった牧山善彦神父様からのメッセージを盛り込んだ動画を「なかま」という曲に合わせてお届けしました。

ミサ後の教会新年会では、新成人を囲んで、パーティー係さんが腕を振るって下さったお料理と共に和気あいあいと歓談の時間を過ごすことができました。同じ誕生月の方々が集まっての写真撮影タイムも盛り上がりました。以下に、当日参加は叶わなかった新成人の皆さんを紹介します。これからも新成人たちと支え合い、共に歩んで行くことが出来ますように!

ベルナデッタ O. Y.

フランシスコ K. K.

アンナ T. N.

ヨハネ M. A.

トマス S. M.

パウロ R. K.

ラファエル T. R.

セイヤ アルドリン M. S. A.

# きょうかいがっこうだより

カトリック二俣川教会 教会学校  
2025年2月

## 【2月～3月の予定】

- |        |                   |                                       |
|--------|-------------------|---------------------------------------|
| ・2月2日  | きょうかいがっこう<br>教会学校 | はつせいたい<br>初聖体クラス                      |
| ・2月9日  | じしゃかい<br>侍者会      | はつせいたい<br>初聖体クラス (10:00 ミサ 二十六聖人のお祝い) |
| ・2月16日 | きょうかいがっこう<br>教会学校 | はつせいたい<br>初聖体クラス                      |
| ・3月2日  | きょうかいがっこう<br>教会学校 | はつせいたい<br>初聖体クラス                      |
| ・3月9日  | じしゃかい<br>侍者会      | はつせいたい<br>初聖体クラス                      |
| ・3月16日 | きょうかいがっこう<br>教会学校 | はつせいたい<br>初聖体クラス (10:00 ミサ 卒業式 修了式)   |
| ・3月26日 |                   | はつせいたい<br>初聖体クラス                      |

## ●三学期始業

1月19日は、成人のお祝いのミサがありました。教会のお兄さん、お姉さんたちに歌のプレゼントをしました。ギター伴奏は姜神父様!!「ともだちになるために」を手話で元気よく歌いました。



お兄さん、お姉さん  
おめでとうございます!!



きみと!きみと!きみと!



みなさん、手話に気づきましたか?

## ●初聖体クラス始動

6月22日のキリストの聖体(祭日)に向けて、心を合わせて準備をしていきます。  
神さまのことをたくさん知ることができるよう。イエス様ともっと仲良くなれますように。  
みなさん、お祈りで応援してください。



- 1月25日は姜真求神父様の57歳のお誕生日でした。翌26日の10時ミサの最後に、子どもたちと青年たちが一人1本の花を持って入堂し、神父様に差し上げました。バックミュージックはオルガン伴奏と手拍子に合わせた「ハッピーバースデー」の歌。小さな花は集まって、色とりどりの大きな花束となりました。
- 2月5日(水)は二俣川教会の守護聖人である日本二十六聖人殉教者の祝日です。今年は2月9日(日)に口ウソク行列を行い、お祝いします。
- 3月20日(木・祝)に保土ヶ谷教会のルカ枇杷晃平助祭の司祭叙階式が、13時より保土ヶ谷教会にて執り行われます。助祭のためにお祈りいたしましょう。

\*\*\*\*\*



## マリア会通信 No. 147



パーティー係では1月19日の新年会・新成人のお祝いの為お料理を準備させていただきました。係のご奉仕に加わって一年、相変わらずお台所で右往左往の日々ですが、先輩方はいつも優しく見守ってくださっています。

今回のお料理はいかがでしたか。梅の花に見立て磯辺揚げの上に散らされた人参のお味にお気づきになったでしょうか。実はほのかに甘みがつけてあり、私は美味しくて味見の手が止まりませんでした。人参のお花は、自宅でもよく作りますが、(飾りだから…)と侮ってわざわざ下味を付けたことはありませんでした。それが一時間でこんなに美味しくなるのか!と驚いていると、その様子をご覧になっていた調理担当の方が、「お味はいかがかしら。」と、にこにこしておっしゃいました。

少しでも美味しく、食べやすくなるように。お祝いらしく、彩り豊かに、華やかになるように。そんな祈りを込めてくださったことが身に染みて、堪らなく嬉しくなりました。愛と祈りのあるところにいつも神様がおられると実感した、お恵みの出来事でした。

今回お台所には新しく二名の方がお手伝いに来てくださいました。ご協力に心から感謝いたします。またフルーツの献品をお寄せくださった皆様、本当にありがとうございました。今後も頑張ってお参りますので、是非お気軽にご意見・ご感想等お聞かせください♪最後になりましたが、新成人そしてご家族の皆様方、この度は誠にありがとうございます。明日の教会を担う若い方々のお姿が眩しく笑顔と幸せいっぱいになりました。神に感謝! マリア様にいつもお祈りいたします。神様のお望みが行われますように。

マリア会 K. R.

\*\*\*\*\*

### 「編集後記」

通常聖年が始まりました。テーマは「希望の巡礼者」。とても前向きで、共に手を取り合って一歩踏み出したくなるテーマだと思いました。「きぼう」で縦読みポエムに挑戦してみたいと思います。最初の言葉を縦に読んでみてください。

気づきの時こそ  
牧者と共に  
歌おう希望を

(Y. O. 記)